

# 月刊 やちまなこ

2013.3.15 発行

No. 184

## 3 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

ワカサギ釣りが終わり、湖の雪も一段と眩しく感じられるようになった。岸边には水面が現れ始め、オオハクチョウがのんびりと羽を休めている。

雪解けが進み、その数も増えるころには北へ向け旅立つ日が訪れる。肌を刺すような風を受け、まるで踊るように揺れるネコヤナギの銀色の光に早春の息吹きを感じた。



## コッタロ川と湿原のほとりから

153 3月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“ 巣ごもれる丹頂嬉し弥生哉 ” 子別れ直後からの交尾期ひと月余りを経て、そろそろ満潮に達しつつある丹頂3番は、各々の営巣地で産卵準備に余念がありません。この時季特有の何かに憑かれた様な雰囲気をかもし出す彼等はまるで「神」そのもののようですね。

ところで、全道に暴風雪による大災害をもたらした『白魔』は、50年或いは100年ぶりとも云われる超急速に発達した低気圧(963HP)でした。幸運にも人的、物的被害は全く無かったコッタロでは、専ら山の生きもの達へ思いをはせるばかり。一夜明けると案の定ブリザードによる深雪でネズミー匹捕れなかったであろう北狐のキャンシーが、空腹を抱えへろへろの体で現われたではありませんか。日頃は見向きもせず通り過ぎる鳥用トウキビを這いつくばってむさぼり、身動き一つせずにしばらくの間寝そべておりました。その愛らしくもあわれな姿を御覧下さい。鍋ツグミとハクセキレイのツーショットと共に。

又、滅多に山から下りて来ることのなかったコゲラの君もバードレストランの脂身に取りついて、赤ゲラ7羽の留守中、ゆったりとお腹を満たした後、うとうと転寝、と云うのも非常に珍しく、チラと一瞬開いたまなこがとっても眠た気でした。

過ぎてみれば結局暖冬であった今季 - 27 止まりのコッタロは、年毎に温暖化しており、飛来する冬鳥達が極端に減少してきたようで、中でもマヒワやアトリの群を見なくなって久しいのが残念でなりません。

相次ぐ低気圧が北海道へ北海道へと発達し乍ら訪れる予報にまた一步「春」があとずさりするのではないかと思ひ乍ら“残雪を惜しみて歩くスキー哉”と云った昨今です。



## 湿原の住人たち その144

## ホオジロガモ

ホオジロガモはユーラシア北部と北米で繁殖するカモの一種で、釧路湿原には冬鳥として飛来し、湖沼や河川などで羽を休める姿が見られます。結氷する厳冬期はあまりお目にかかれませんが、先日、釧路川でカワアイサの群に混じって潜水を繰り返す雄（写真）を見つけました。「頬白鴨」の名前の由来は、雄の頬が白いからで、雄とは羽衣が異なり、全体に褐色でくちばしの先がオレンジ色の雌には、頬に白い模様がありません。因みに英名は Goldeneye で、雌雄どちらにも当てはまります。解氷が進み湖沼の水域が広がってくると塘路湖にもカモたちが集まってくるので、三角おにぎり形の暗緑色の頭部と白い頬を目印に探して観察してください。



## 雪景色の湿原を散策しました



photos Miki Shimizu

今月2日に自然ふれあい行事「釧路湿原・散策と温泉」を茅沼にあるシラルト口湖と蝶の森周辺で開催しました。スノーシューを履いて散策すると湖岸のヤナギやエゾノコリンゴの樹皮がエゾシカにより食べられた痕や湧水のある場所では水温を測ると12℃もありました。湖から蝶の森に場所を移動すると、縄文時代の竪穴住居跡や炭窯跡があり、当時の釧路湿原の環境とともに暮らした先人たちの様子も観察しました。雑木林をしばらく散策していたらアカゲラのドラミングが聞こえ、さらに変な鳴き声をするカラス（ワタリガラス）など、参加者は初めて体験したスノーシューに戸惑いながらも、「散策を通して湿原の自然や歴史などを知ることができた日でした」と感想を述べていました。汽笛が聞こえ、SL冬の湿原号が通過する時間となり、煙を勢いよく吐きながら走行する姿を見送り観察会は終了。そのあとは憩の家温泉に浸かり汗を流しました。参加者の皆さんお疲れ様でした。

## つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.67 「塘路市街に迷鳥歩く？」

玄関を開けると、そこにハクチョウがいました。

私も塘路に住んで11年弱になりますが、初めての事でかなり驚きました。このハクチョウ、私が見る数時間前に塘路駅前にいる所を確認されていて、「翼を怪我しているのか、飛べずに歩きまわっている」との報告を受けていました。私が近寄っても確かに小さく「ガァーガァー」鳴くだけで飛ぶ気配はありません。とりあえず道路上は危険な為、郊外へ誘導し、行政の担当課に連絡しました。するとどうやら3日前にここから6.5キロ離れた場所で一度保護されていたらしく、その後ここまで歩いてきたようです。そして塘路市街を歩きまわったらしく、愛称をつけた方もいらっしゃいました。

その後姿を消してしまいましたが、塘路地域のちょっとした珍事でした。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



# 4月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## 春のバードウォッチング

〔日時〕4/20(土) 10:00~12:00

〔定員・参加料〕15名、無料

〔場所〕蝶の森・シラルトロ湖周辺

〔持ち物〕双眼鏡(無料貸出も有り) フィールド状況によって長靴を用意してください。

申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

## 早春の湿原ハイク

〔日時〕4/14(日) 10:00~12:00

申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

## 塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(3/9)土から頭の先を出したフクジュソウの芽 (3/10)ヤナギの芽・ハンノキの雄花穂

【鳥】(2/18)カワアイサ・オオハクチョウ・オオワシ (2/19)オジロワシ・ケアシノスリ (2/22)ノスリ (2/25)ツグミ・ハシブトガラと(シマ)エナガの混群・モズ・コゲラ・ホオジロガモ (3/1)シメ (3/2)アカゲラ (3/8)アオサギの群れ・ウソ (3/8)ワタリガラス (3/10)マガモの番・ヒガラ・国道を横切るタンチョウ

【その他】(2/19)キタキツネ (3/1)テントウムシ・ワラジムシ (3/4)エゾシカの死骸と群がるカラス (3/6)エゾタヌキ (3/10)しっぽが細くなったキタキツネ・ワカサギ釣り終了

## 引き換えはお済みですか？

「生物多様性」に関心をもってもらう、「自然とのふれあい」を広げていく、「国立公園」「野生生物」に親んでもらうことを目的に、2010年7月からスタートした「全国自然いきものめぐりスタンプラリー」が3月31日で終了します。スタンプが3コ、5コ、10コで記念品の引き換えができますが、お済みでない方はお急ぎください。

日出・日入時間 3/15(5:35, 17:28)・3/31(5:07, 17:47)・4/14(4:43, 18:03)



湖畔で合コン!? 早春の風物詩(3/12)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:[emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料